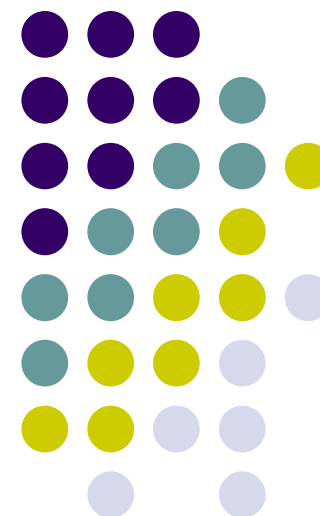
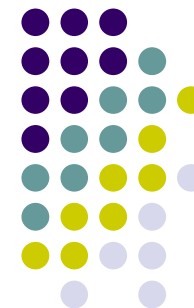


大阪府内の資金需要動向と 金融機関の貸出スタンス —— アンケート調査結果 ——

2024年3月13日



一般社団法人 大阪銀行協会
Osaka Bankers Association



- ✓ 本資料の内容について、商用目的での転載・複製を行う場合は予め大阪銀行協会までご相談ください。転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。
- ✓ 本資料に掲載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、大阪銀行協会は、利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

【本資料に関する照会先】

大阪銀行協会調査部 (daiginkyo-chousa@oba.or.jp)



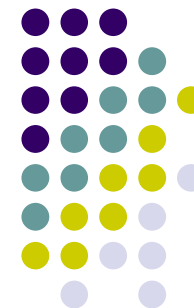
(要旨)

- 大阪府内に営業拠点を有する金融機関では、足許の企業の資金需要について、6割弱の先が前年同期対比で「増加」または「幾分増加」との見方にある。また、先行きについても、5割強の先が同様の見通しとしており、当面、大阪府内の企業の資金ニーズは堅調に推移するとみられる。
 - 資金需要増加の要因として、金融機関の8割強の先が「売上の増加」、6割の先が「設備投資の増強」を指摘しており、企業サイドでの業績の回復や積極的な投資行動が窺われる。
- この間、個人や地公体の資金需要については、大方の金融機関で、足許、先行きとも、前年同期対比「同水準」との見方にある。
- こうした状況のもとでの金融機関の貸出スタンスは、企業向けでは、足許のほか、先行きにおいても、利鞘確保を重視する先が7割方に上っており、資金需要が堅調の環境下でも、多くの先で貸出のボリューム拡大よりも採算性を優先する姿勢にあることが窺われる。
 - 利鞘確保を重視する要因として、9割弱の調査先が「自行庫の収益増強を企図」と回答。
- このようなスタンスを映じて、企業向け貸出での金利設定スタンスは、前年の同時期に比べ「引き上げ方向」と回答した金融機関が足許で7割弱となっているほか、先行きについては7割強と一段と増加。
- 他方、個人向け貸出スタンスについては、足許、先行きとも、残高増強を重視する先と利鞘確保を重視する先が概ね同数となっている。このほか、地公体向けは、7割方の金融機関が先行きも含め利鞘確保を重視と回答。



(はじめに)

- 大阪府内の銀行貸出は、このところ前年比+3%程度の増加が続いているが、当地の景気は、個人消費や設備投資が堅調に推移する一方、輸出、生産が弱含んでおり、持ち直しの動きに力強さが感じられない状況にある。
- 大阪銀行協会では、こうしたもとでの大阪府内の資金需要の動向と各行庫の貸出スタンスについて、同府内に営業拠点および預貸取引を有する金融機関76先（以下、「調査先」という）を対象にアンケートを実施した。
 - ✓ 具体的な調査先は、大阪府内に営業拠点および預貸取引を有する銀行56先、信用金庫10先、信用組合10先の計76先。
 - ✓ アンケート実施期間は、2024年2月1日～2月26日まで。回収率は99%（信用金庫1先が未回答）。
 - ✓ なお、調査先の銀行に関して、本資料記載の業態別の内訳は、大手行は、みずほ、三菱UFJ、三井住友、りそな、みずほ信託、三井住友信託、SBI新生、あおぞらの8先、地域銀行は、地方銀行37先と第二地方銀行11先の計48先。



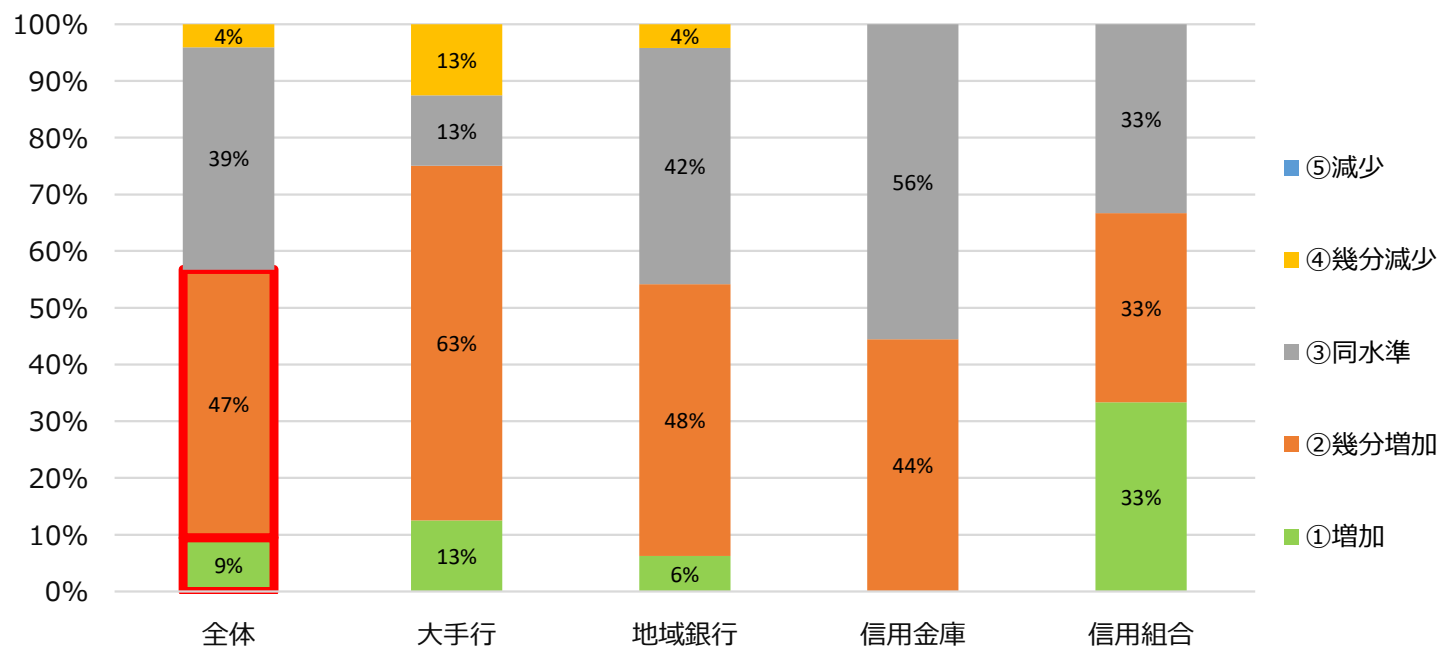
I. 資金需要動向

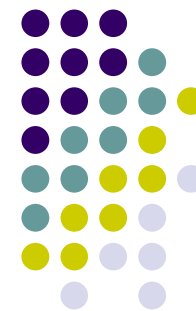
1. 足許の状況

(1-1) 企業の資金需要動向

- 年度末までの大阪府内所在の企業の資金需要について、調査先では、前年同期対比で「増加」または「幾分増加」とみる先が6割弱に上っており、企業の資金ニーズは堅調との見方が大勢。
 - これに対し、「幾分減少」または「減少」とみる先は僅少となっている。
- 業態別には、大手行で8割弱と大方の先が「増加」または「幾分増加」と回答しているのが目立つ。

▽ 年度末までの企業における資金需要の前年同期対比の見方





I. 資金需要動向

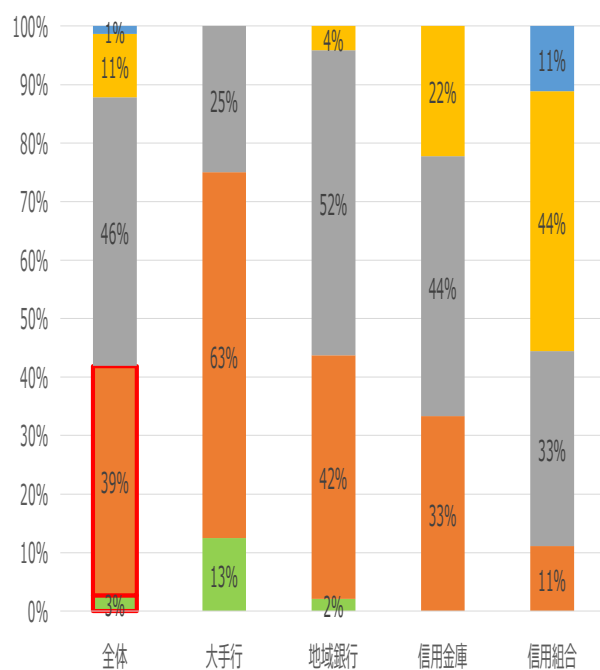
1. 足許の状況

(1-2) 業種別の動向

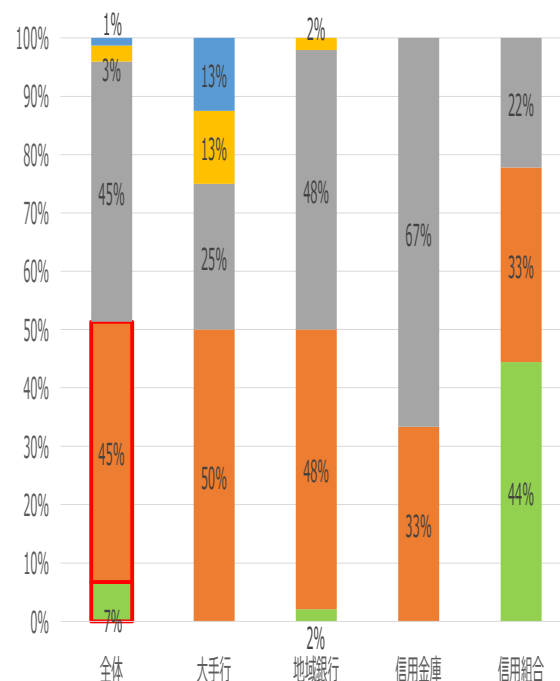
- 業種別には、製造業については「増加」または「幾分増加」とみる調査先が4割方となっているのに対し、非製造業は5割方の先となっており、製造業に比べ幾分多い。
 - ― ただし、大手行では、8割弱の先が製造業は「増加」または「幾分増加」としているとは回答しており、5割の先にとどまった非製造業よりも多い。一方、信用組合では、非製造業で「増加」または「幾分増加」としているとは回答した先が8割弱に上っている。
 - ― 非製造業の中でも建設・不動産業で「増加」または「幾分増加」としているとは回答した先は、6割弱と非製造業全体の割合よりも幾分高い。

▽ 年度末までの業種別資金需要の前年同期対比の見方

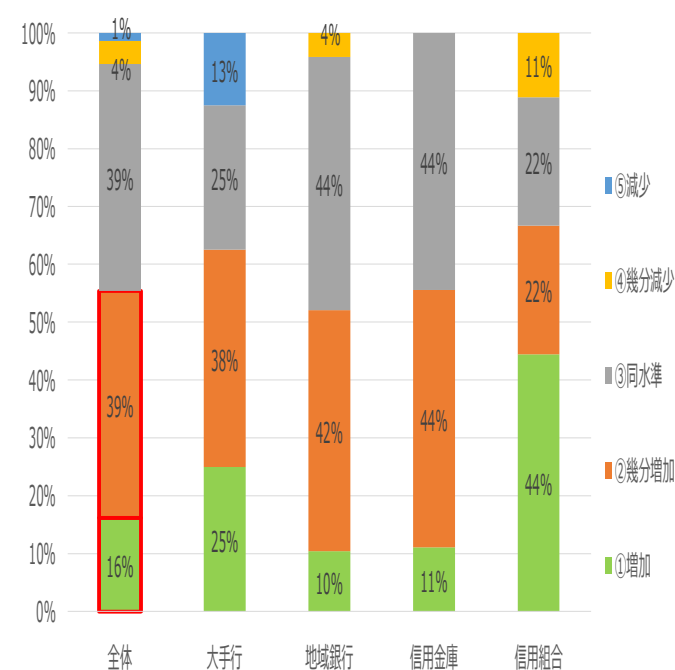
(製造業)

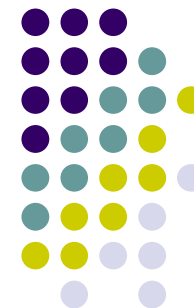


(非製造業)



(建設・不動産業)





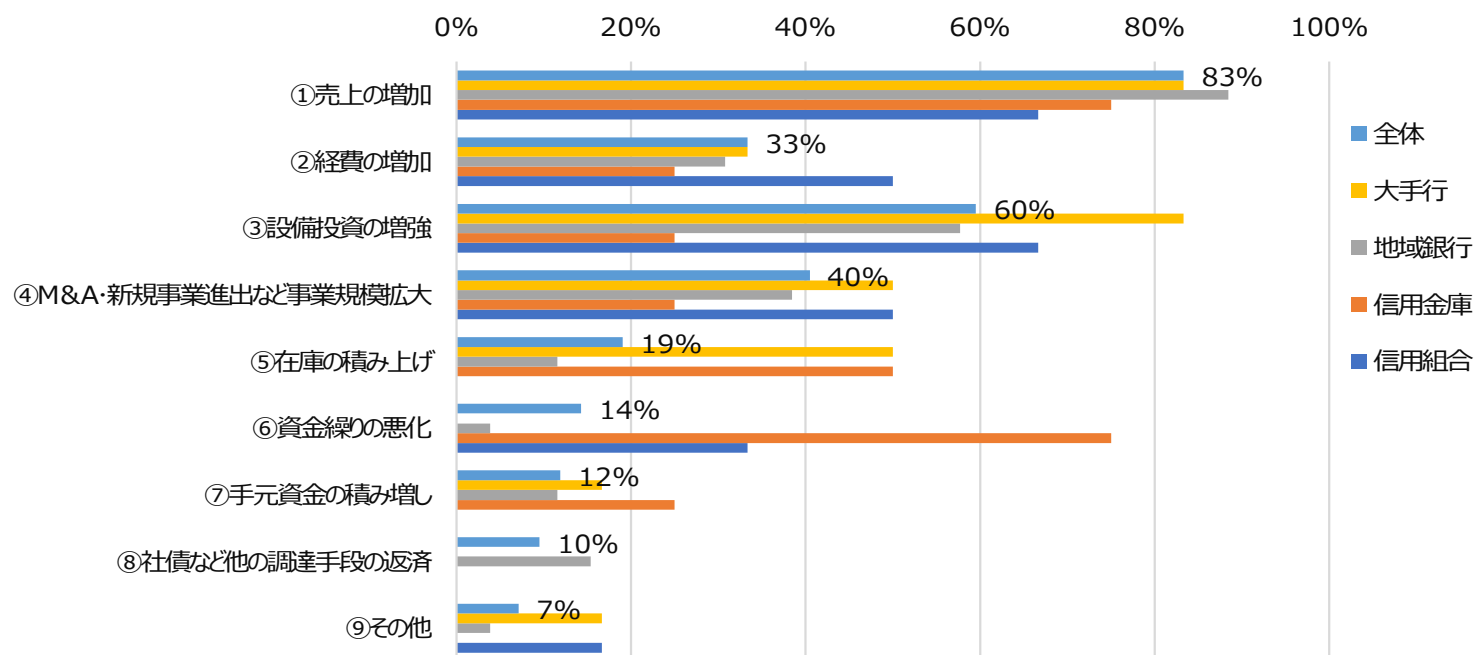
I. 資金需要動向

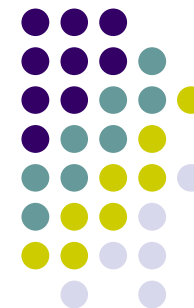
1. 足許の状況

(1 - 3) 資金需要増加の要因

- 資金需要が「増加」または「幾分増加」と回答した調査先では、その要因として、8割強の先が「売上の増加」、6割の先が「設備投資の増強」を指摘。
- 業態別には、大手行では「売上の増加」や「設備投資の増強」を回答する先が多く、比較的規模の大きい企業で業績の回復や積極的な投資が進んでいる可能性。一方、信用金庫では8割弱の先で「資金繰りの悪化」を指摘しており、規模の小さい企業では厳しい業況に追い込まれている先が少なくない状況が窺われる。

▽ 年度末までの企業の資金需要の増加要因（複数回答可）





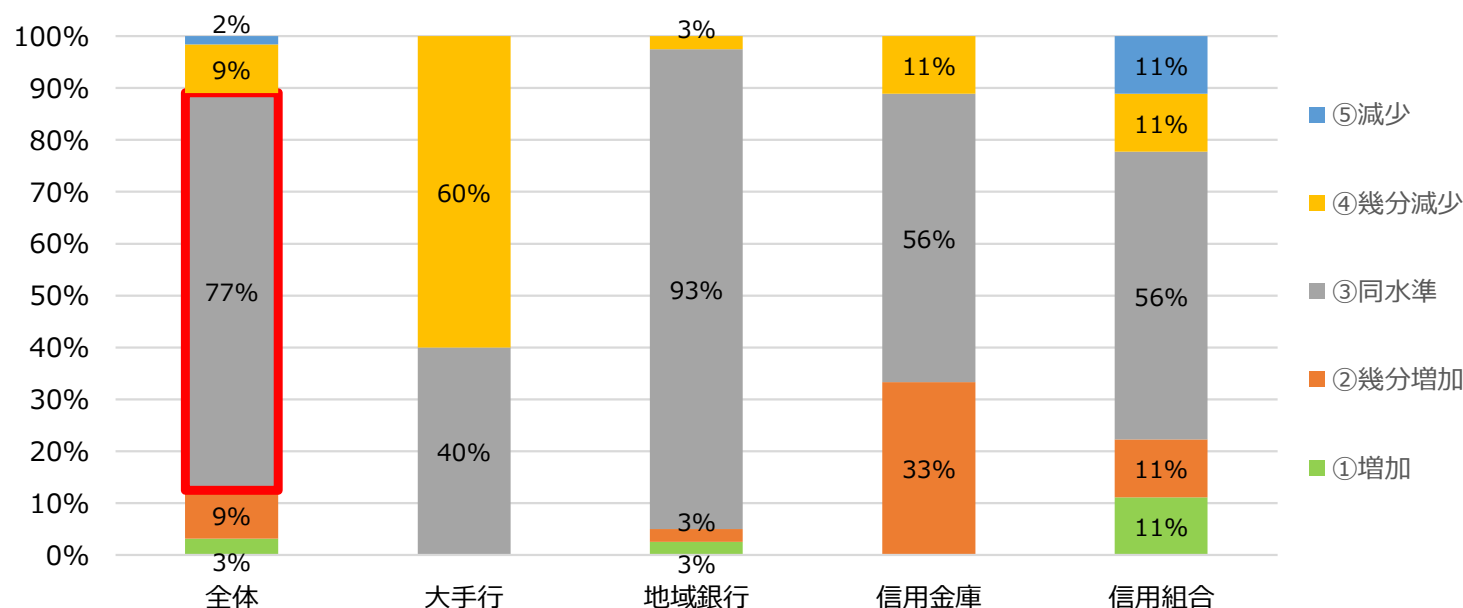
I. 資金需要動向

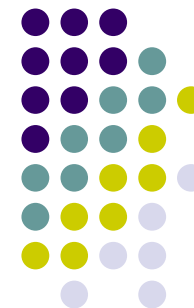
1. 足許の状況

(2-1) 個人の資金需要動向

- 年度末までの個人の資金需要については、8割弱の調査先で、前年同期対比「同水準」との見方。
- 業態別には、大手行で6割の先が「幾分減少」と回答している一方、信用金庫では3割強の先が「幾分増加」、信用組合では2割方の先が「幾分増加」または「増加」と回答しているのが特徴的。

▽ 年度末までの個人における資金需要の前年同期対比の見方





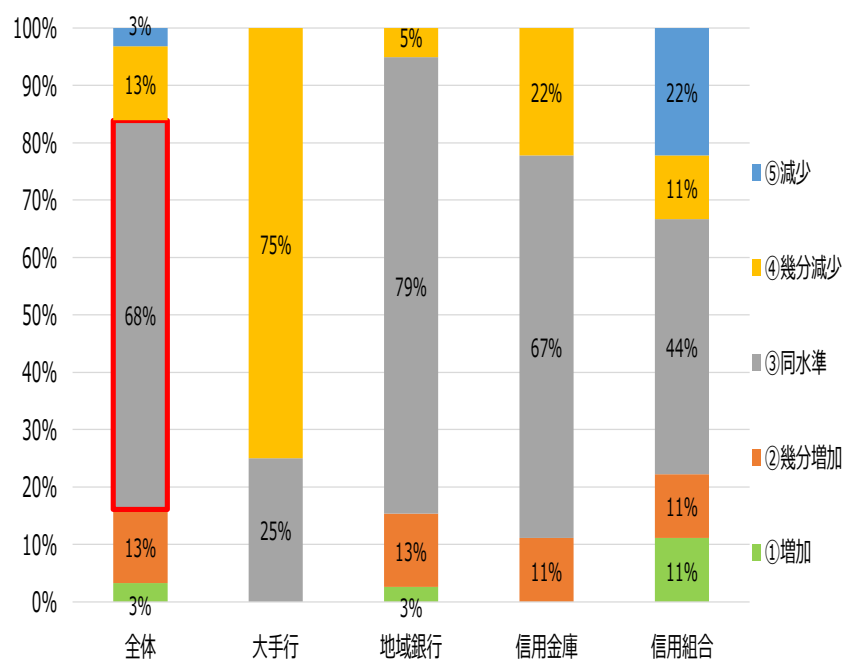
I. 資金需要動向

1. 足許の状況

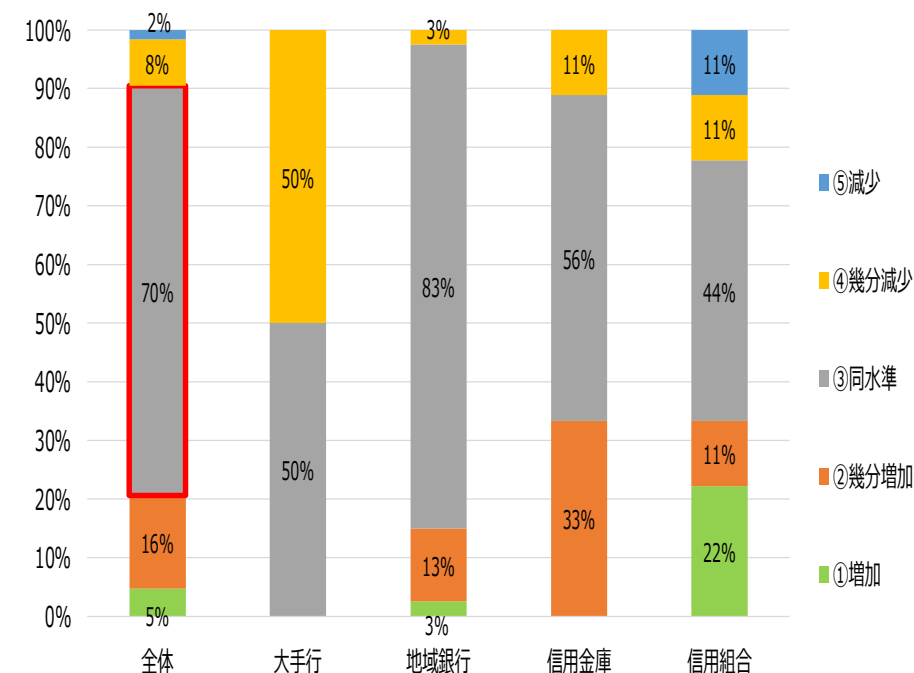
(2-2) 使途別の動向

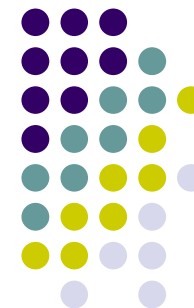
- 個人の需資動向を使途別にみると、住宅ローン、消費者ローンとも、7割方の調査先で、前年同期対比「同水準」とみている。
- こうした中、業態別には、住宅ローンについては、大手行で8割弱の先が「幾分減少」と回答しているほか、消費者ローンについては、大手行で5割の先が「幾分減少」としている一方、信用金庫、信用組合では3割強の先が「幾分増加」または「増加」と回答。

▽ 年度末までの住宅ローンの前年同期対比の見方



▽ 年度末までの消費者ローンの前年同期対比の見方





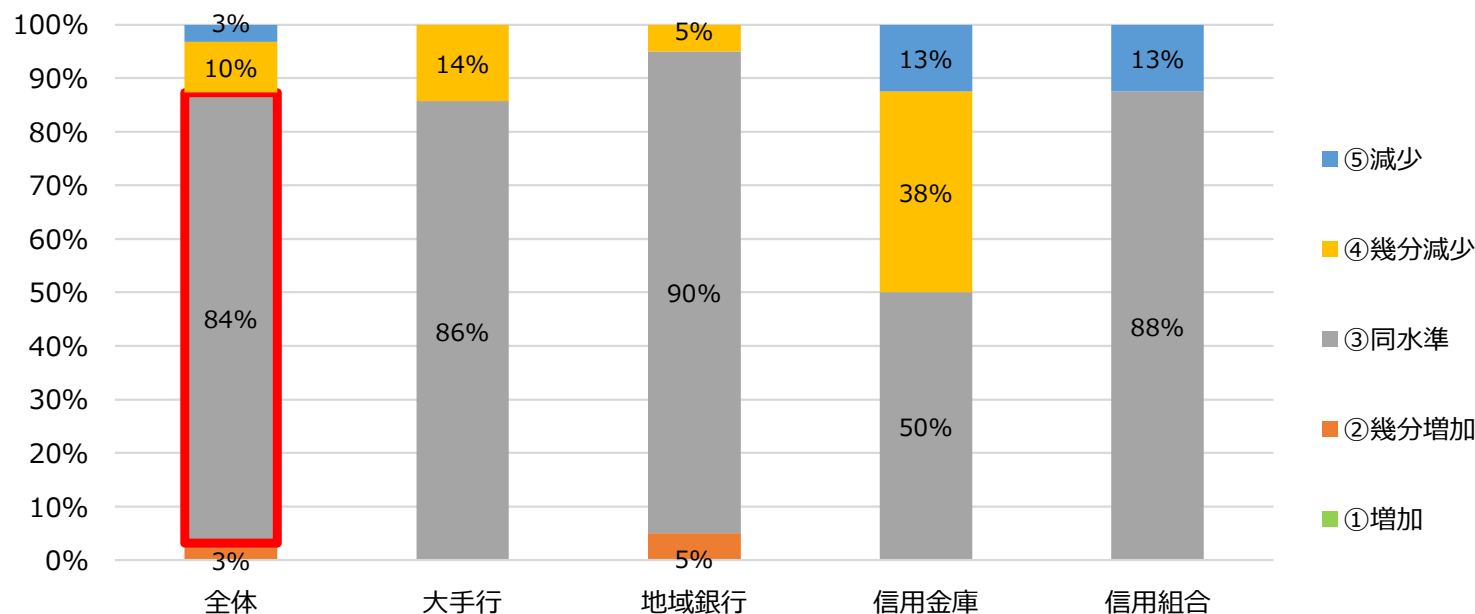
I. 資金需要動向

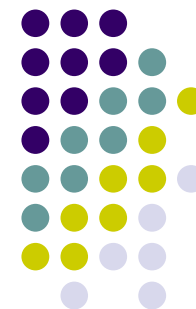
1. 足許の状況

(3) 地公体の資金需要動向

- 年度末までの地公体の資金需要については、8割強の調査先で、前年同期対比「同水準」とみている。
- 業態別には、信用金庫では5割方の先が「幾分減少」または「減少」と回答しているのが目立つ。

▽ 年度末までの地公体における資金需要の前年同期対比の見方





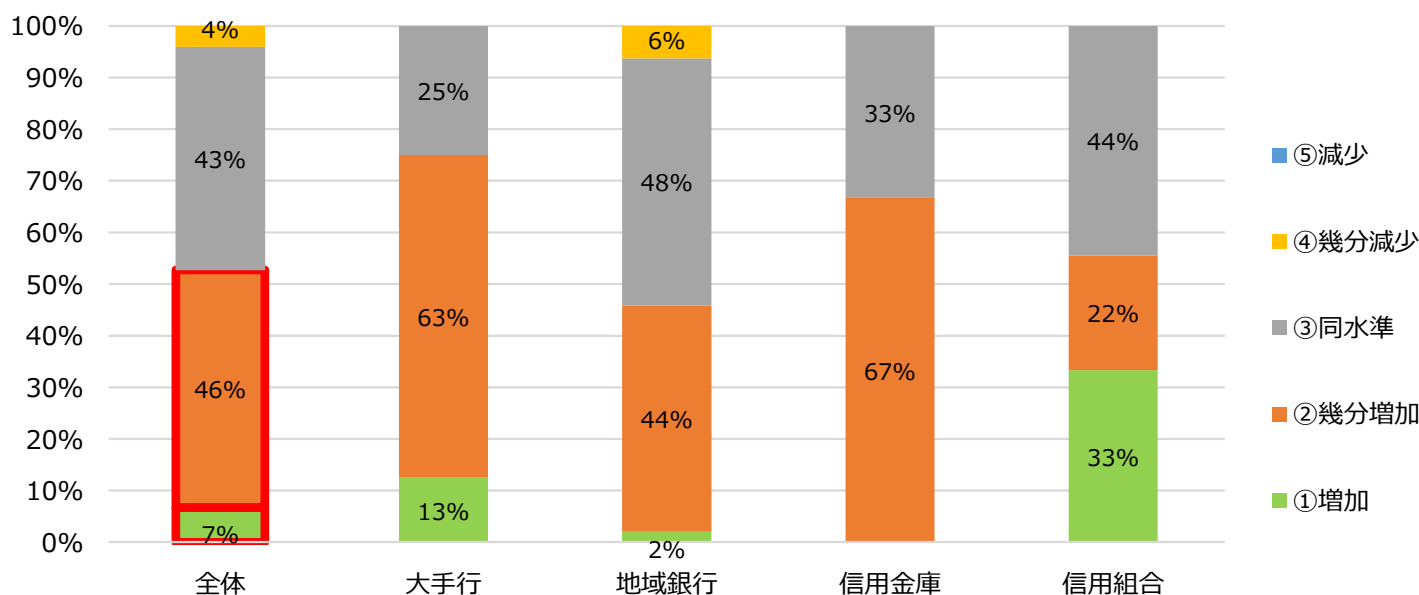
I. 資金需要動向

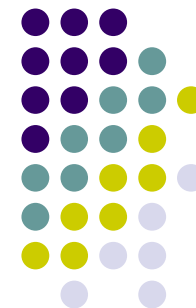
2. 先行きの見通し

(1) 企業の資金需要動向

- 2024年度入り後の大阪府内の企業における資金需要について、調査先では、前年同期対比で「増加」または「幾分増加」とみている先が5割強となっており、4月以降も企業の資金ニーズは引き続き堅調に推移するとの見方。
 - 「幾分減少」または「減少」とみる先は、年度末までの見方同様、僅少となっている。
- 業態別には、大手行では、年度末までの見方同様、8割弱の先が「増加」または「幾分増加」とみている。このほか、年度末までの見方と比較すると、「増加」または「幾分増加」と回答した先は、地域銀行、信用組合が減少する一方、信用金庫は増加と対照的。

▽ 2024年度入り後の企業における資金需要の前年同期対比の見方





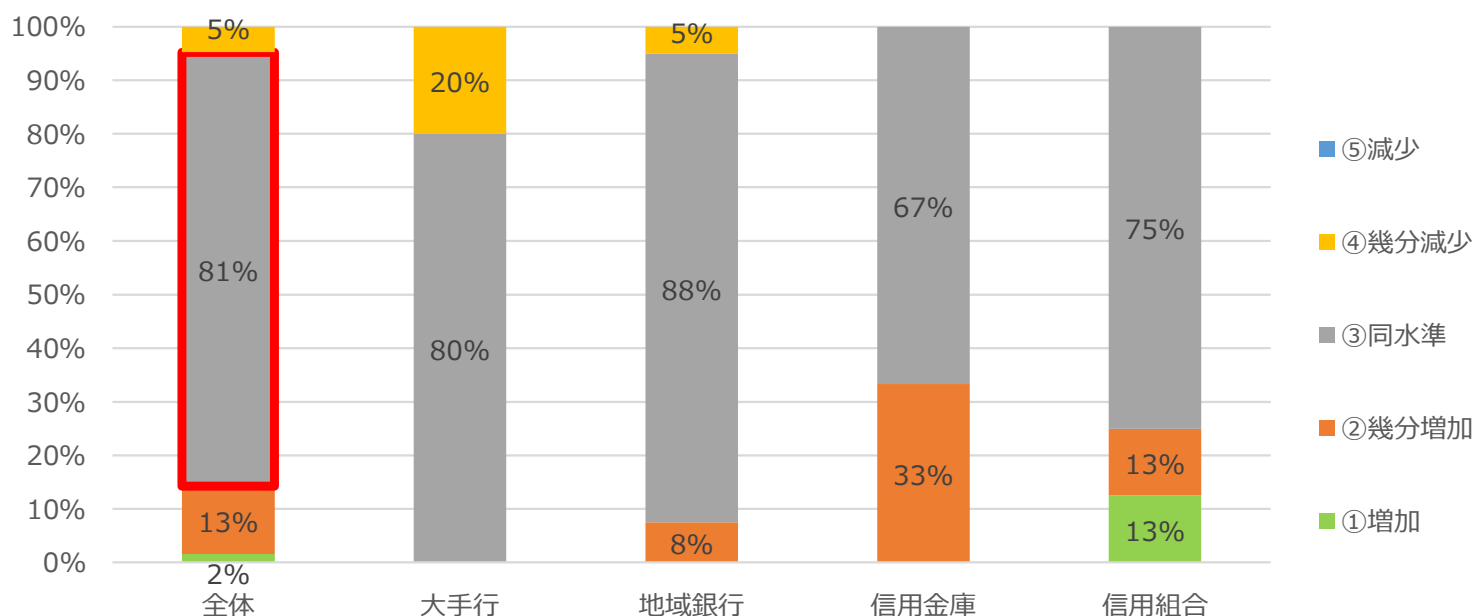
I. 資金需要動向

2. 先行きの見通し

(2) 個人の資金需要動向

- 2024年度入り後の個人の資金需要については、年度末までの見方同様、8割方の調査先で、前年同期対比「同水準」と回答。
- 業態別には、年度末までは6割の先が「幾分減少」と回答していた大手行でも、8割の先が「同水準」と回答。こうした中、信用金庫、信用組合では、「幾分増加」または「増加」と回答している先が比較的多い。

▽ 2024年度入り後の個人における資金需要の前年同期対比の見方





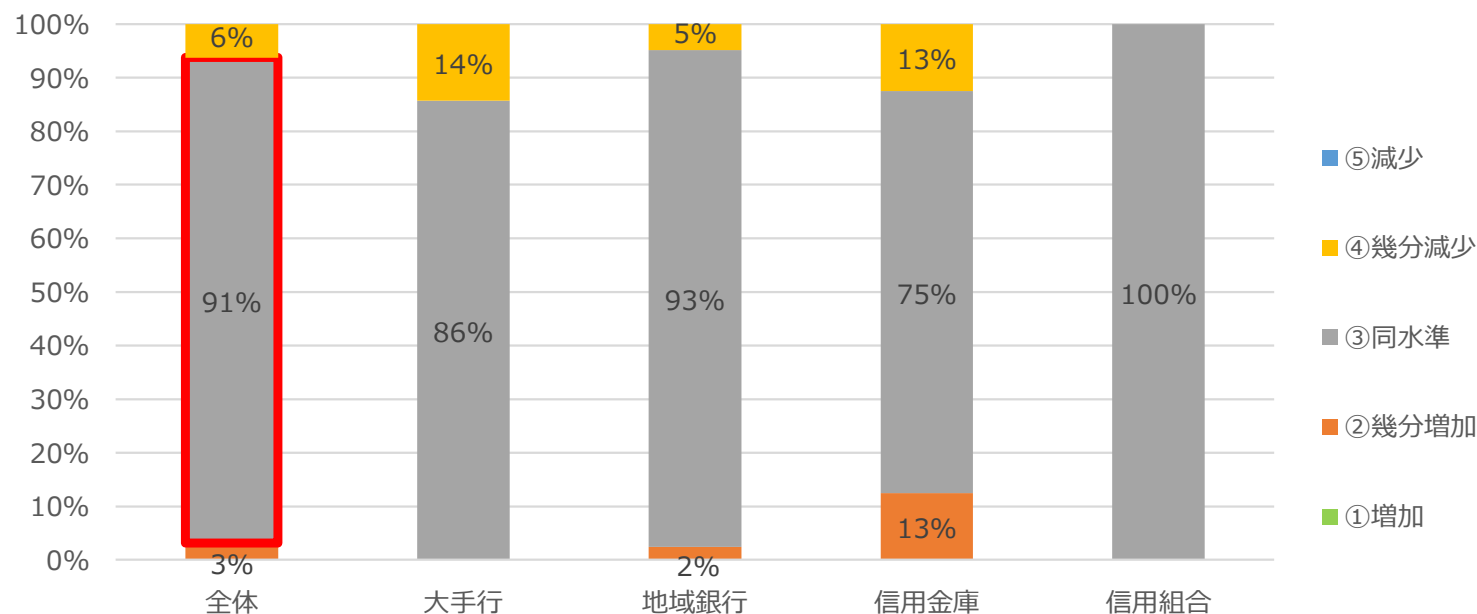
I. 資金需要動向

2. 先行きの見通し

(3) 地公体の資金需要動向

- 2024年度入り後の地公体の資金需要については、9割方の調査先で、前年同期対比「同水準」となるとみている。
- 業態別にみても、信用組合では全ての先が、その他の業態でも大方の先が「同水準」と回答。

▽ 2024年度入り後の地公体における資金需要の前年同期対比の見方



Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

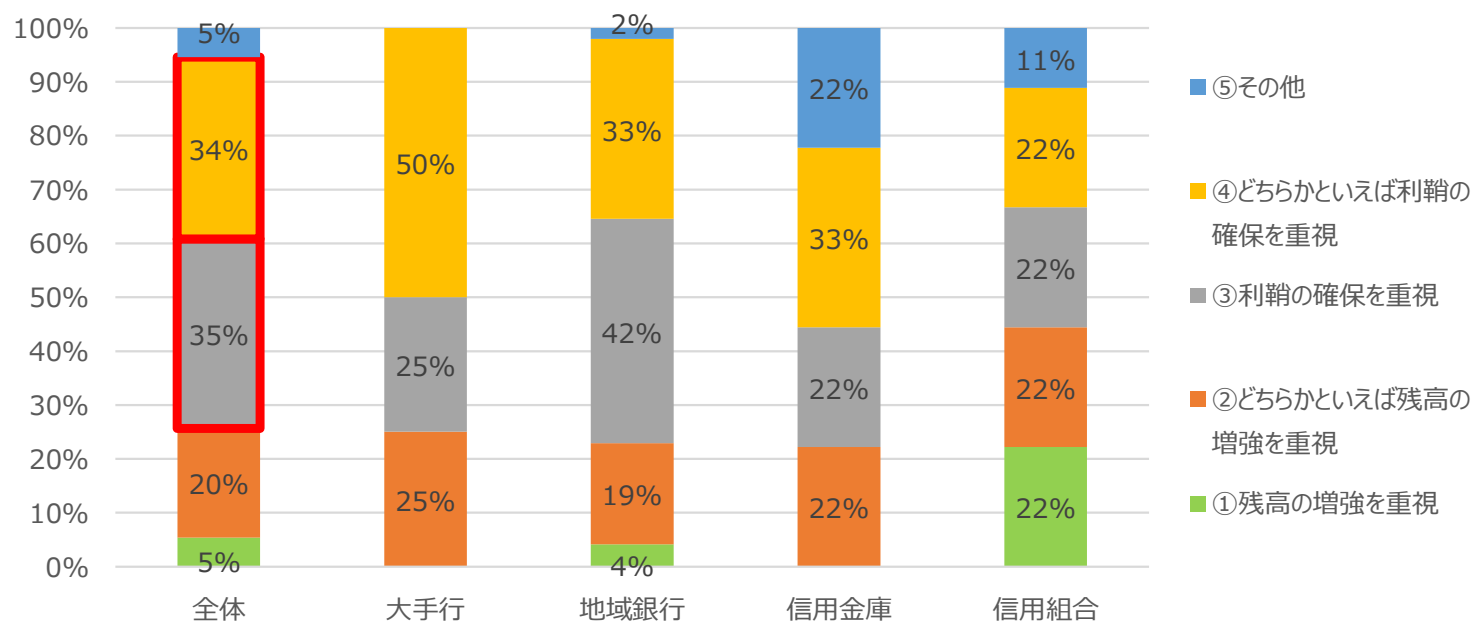
1. 足許のスタンス

(1-1) 企業向け貸出

- 足許の企業向け貸出のスタンスについて、調査先のうち7割方の先で、年度末に向けて企業の資金ニーズが堅調となる中であっても、「利鞘の確保」または「どちらかといえば利鞘の確保」を重視すると回答。

— こうした中、信用組合では、4割強と比較的多い先で「残高の増加」または「どちらかといえば残高の増強」を重視すると回答。

▽ 足許の企業向け貸出のスタンス





Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

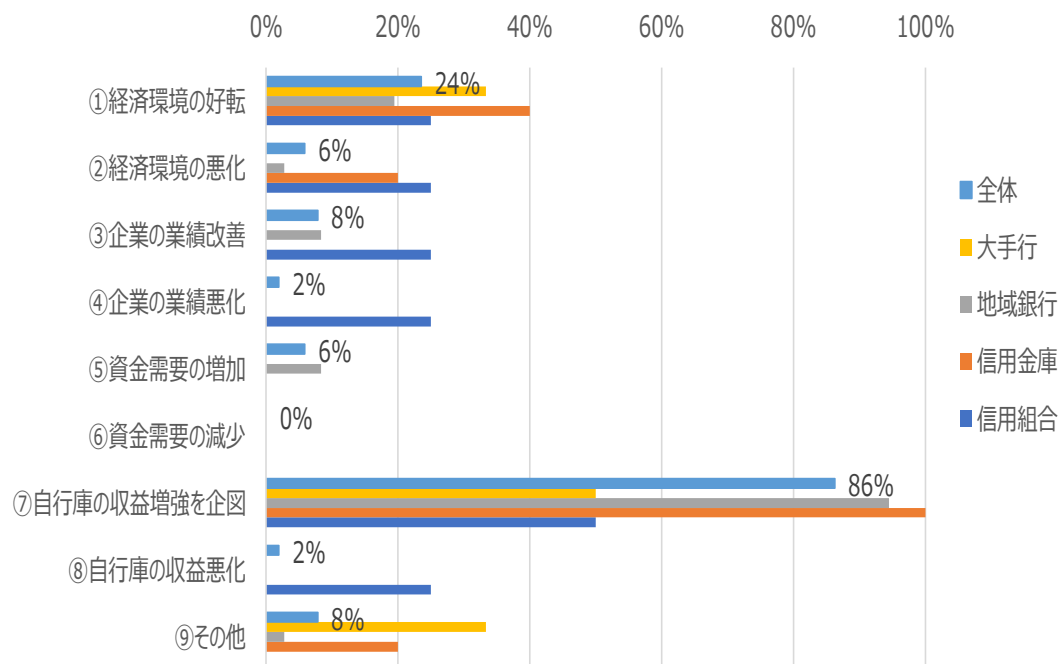
1. 足許のスタンス

(1-2) 利鞘確保重視の要因

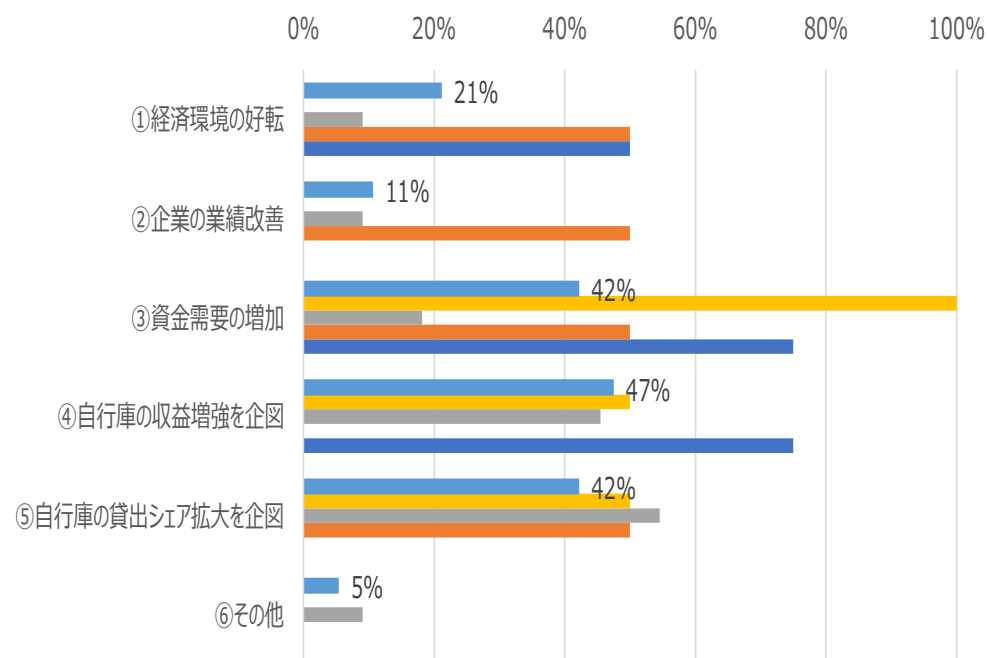
- 足許の企業向け貸出で利鞘確保を重視する要因については、9割弱の調査先が「自行車の収益増強を企図」と回答。

— 他方、残高の増強を重視する先では、「資金需要の増加」、「自行車の収益増強を企図」、「自行車の貸出シェア拡大を企図」を挙げる先が多い。

▽ 足許の貸出運営スタンスを「利鞘の確保を重視」ないし「どちらかといえば利鞘の確保を重視」とする理由
(複数回答可)



▽ 足許の貸出運営スタンスを「残高の増強を重視」ないし「どちらかといえば残高の増強を重視」とする理由
(複数回答可)





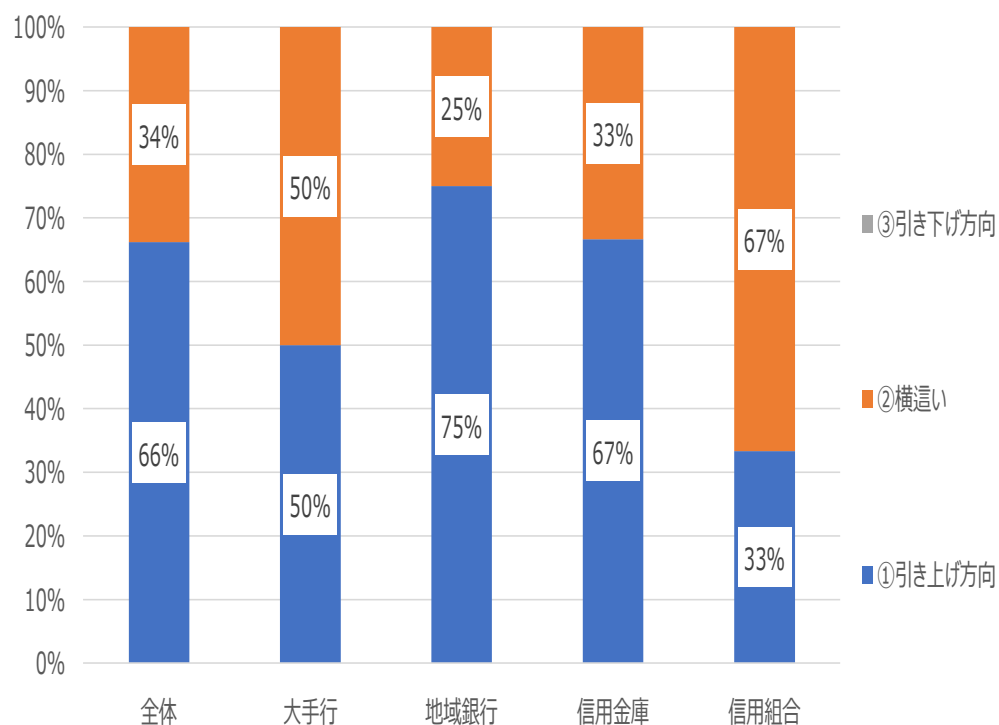
Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

1. 足許のスタンス

(1-3) 金利設定スタンス

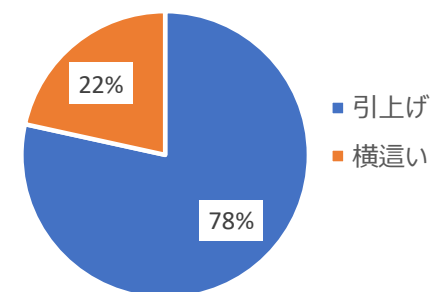
- 足許の企業向け貸出での金利設定スタンスについては、7割弱の調査先が前年の同時期に比べ「引き上げ方向」と回答。
 - ― 業態別には、地域銀行は「引き上げ方向」としている先が8割弱と他業態に比べると多い。
 - ― また、貸出スタンスとの関係をみると、「引き上げ方向」のスタンスにある先は、利鞘確保重視の先では8割方となっているのに対し、残高増強重視の先では4割弱にとどまっている。

▽ 足許の企業向け貸出の金利設定スタンス（前年同期対比）

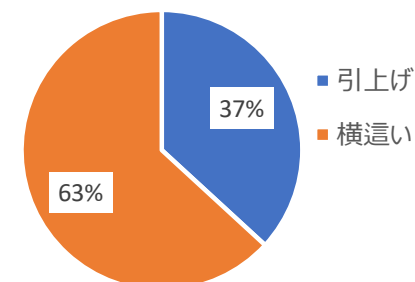


▽ 貸出スタンスと金利設定スタンスの関係

①利鞘確保重視の先



②残高増強重視の先



Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

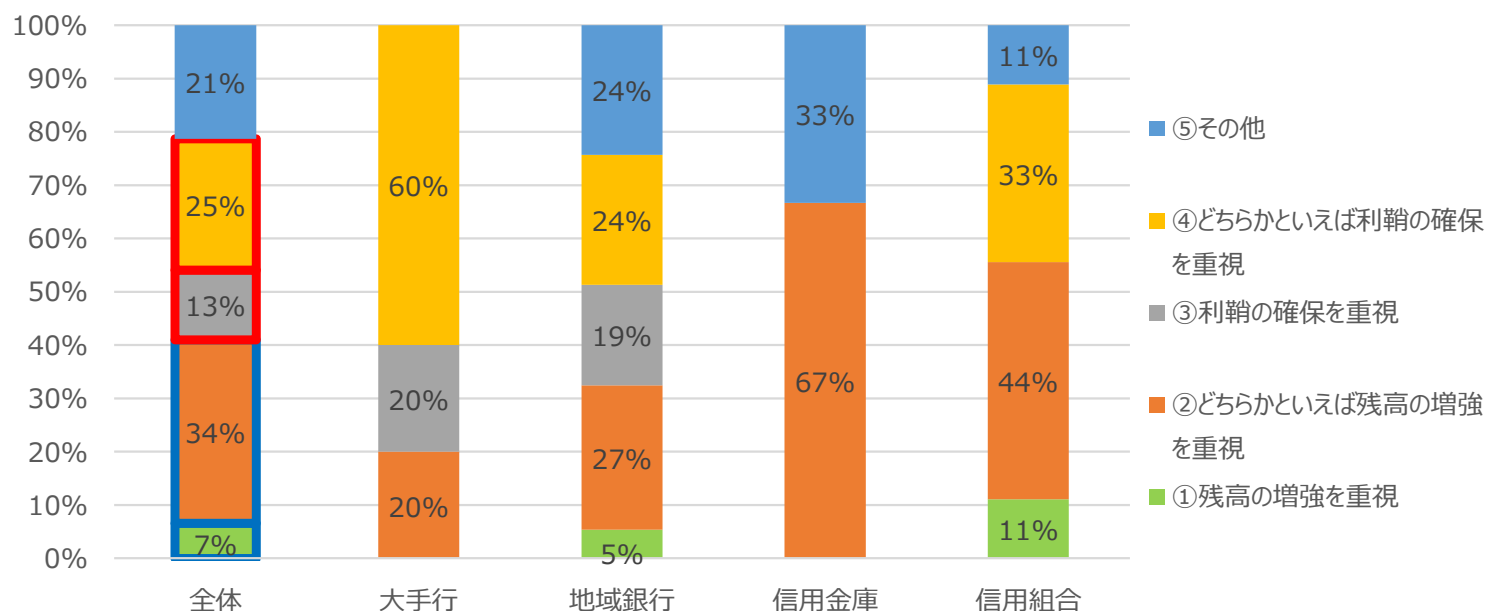
1. 足許のスタンス

(2) 個人向け貸出

- 足許の個人向け貸出スタンスについて、調査先では、4割方の先が「利鞘の確保」または「どちらかといえば利鞘の確保」を重視すると回答している一方、「残高の増強」または「どちらかといえば残高の増強」を重視と回答する先も同様に4割方と相応の数に上っている。

— 業態別には、大手行、地域銀行では利鞘確保重視が相対的に多くなっているのに対し、信用金庫、信用組合では残高増強重視とする先が多い。

▽ 足許の個人向け貸出のスタンス



Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

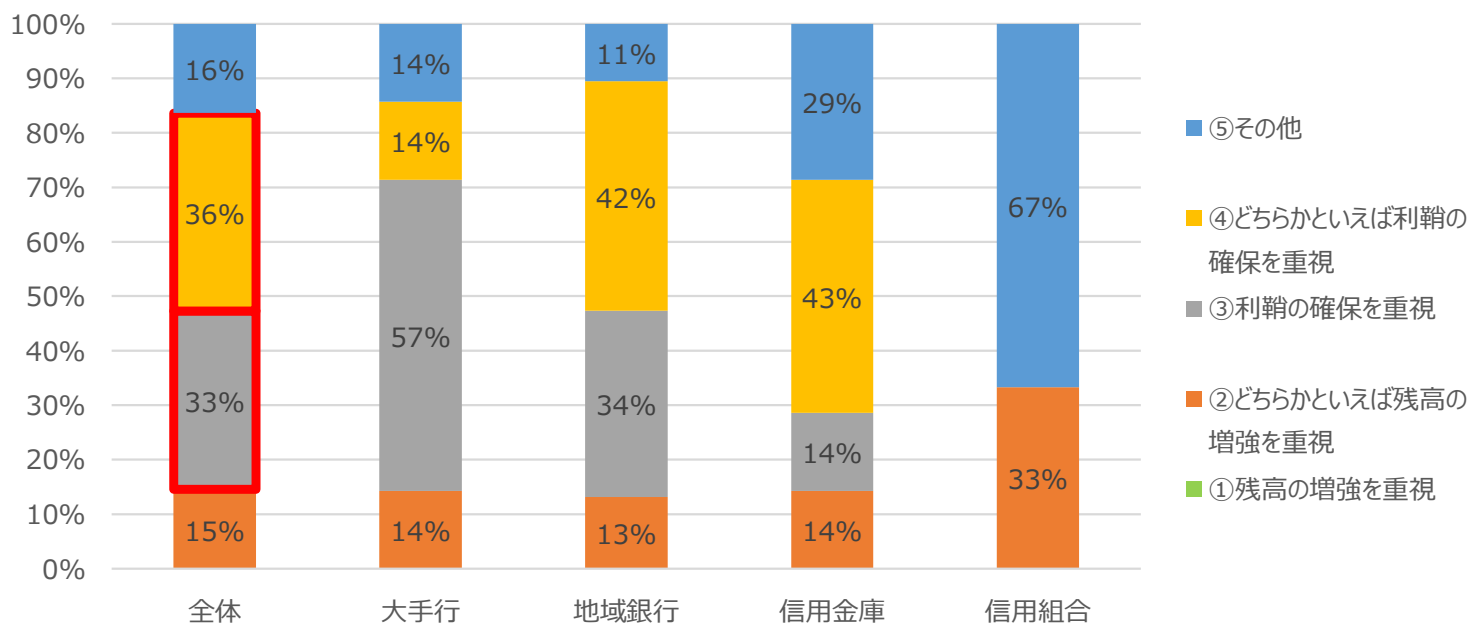
1. 足許のスタンス

(3) 地公体向け貸出

- 足許の地公体向け貸出スタンスについては、7割方の調査先が「利鞘の確保」または「どちらかといえば利鞘の確保」を重視すると回答。

— 信用組合では、「地公体向け貸出には消極的」など「その他」に該当するスタンスの回答が7割弱に上っている。

▽ 足許の地公体向け貸出のスタンス



Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

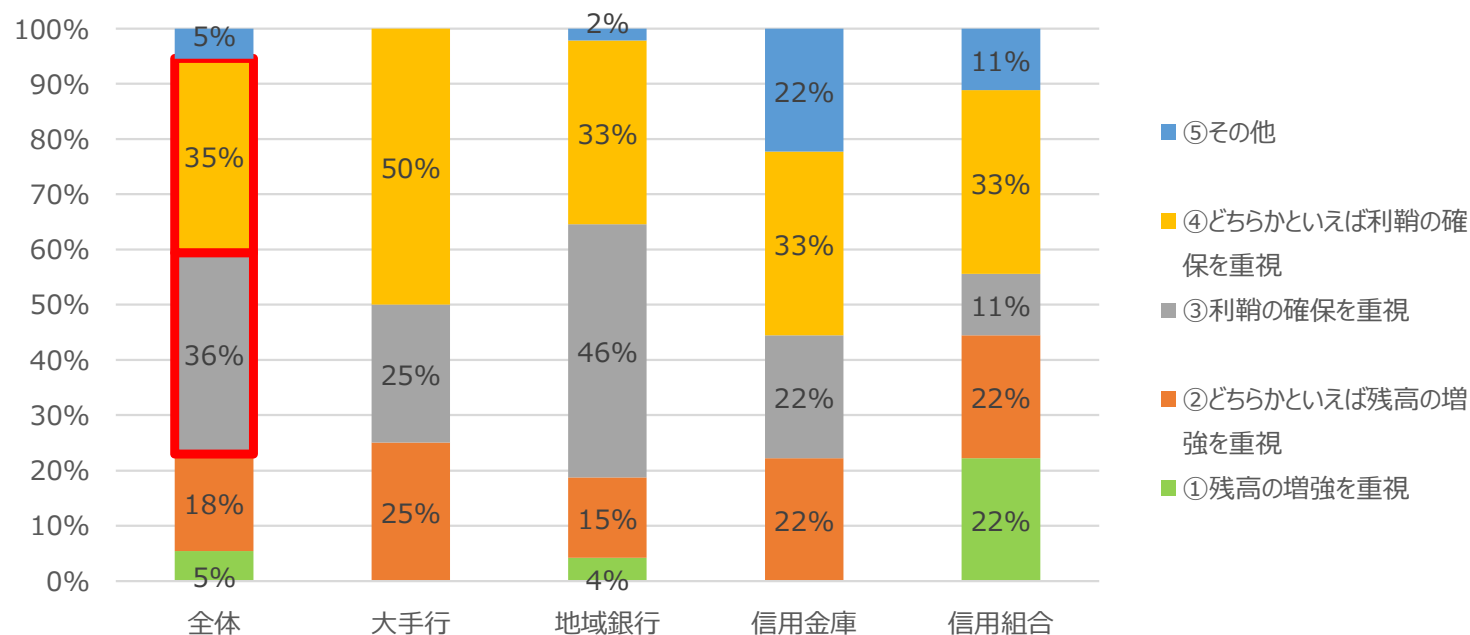
2. 先行きのスタンス

(1-1) 企業向け貸出

- 2024年度入り後の企業向け貸出のスタンスについては、足許のスタンス同様、調査先のうち7割方の先が「利鞘の確保」または「どちらかといえば利鞘の確保」を重視すると回答しており、多くの先で先行きも採算性を優先する姿勢を堅持する方針にある模様。

― 業態別にみても、足許と4月以降のスタンスに目立った変化は窺われない。

▽ 2024年度入り後の企業向け貸出のスタンス



Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

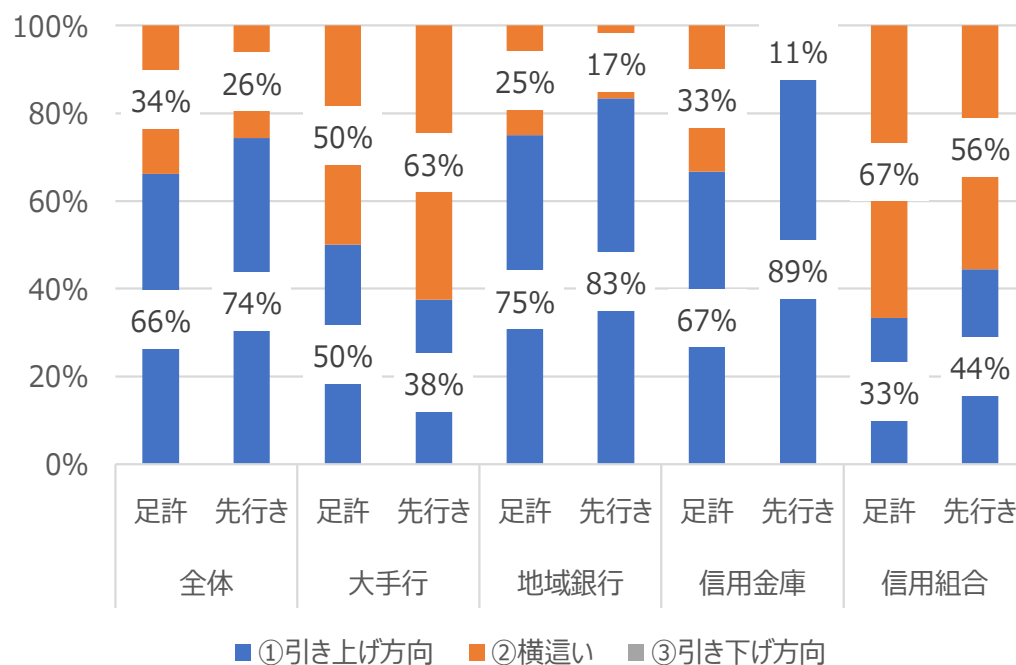
2. 先行きのスタンス

(1-2) 金利設定スタンス

- 2024年度入り後の企業向け貸出での金利設定スタンスについては、7割強の調査先が前年の同時期に比べ「引き上げ方向」と回答しており、足許のスタンスに比べると、金利引き上げを志向する先が一段と増加。

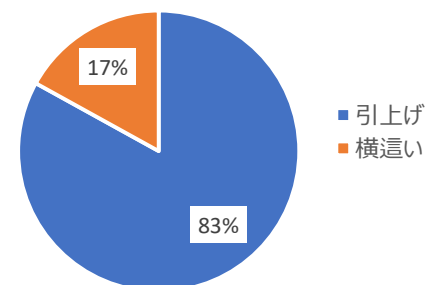
- ― 業態別には、「引き上げ方向」とする先は、足許の状況と比べると、大手行で減少する一方、その他の業態では増加。
- ― また、貸出スタンスとの関係を見ると、先行き「引き上げ方向」のスタンスにある先は、利鞘確保重視の先では8割強に上っているほか、残高増強重視の先でも5割弱と、4割弱となっていた足許時点よりも増加。

▽ 企業向け貸出の金利設定スタンス（前年同期対比）

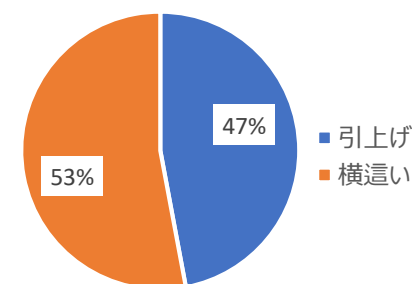


▽ 貸出スタンスと金利設定スタンスの関係

①利鞘確保重視の先



②残高増強重視の先





Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

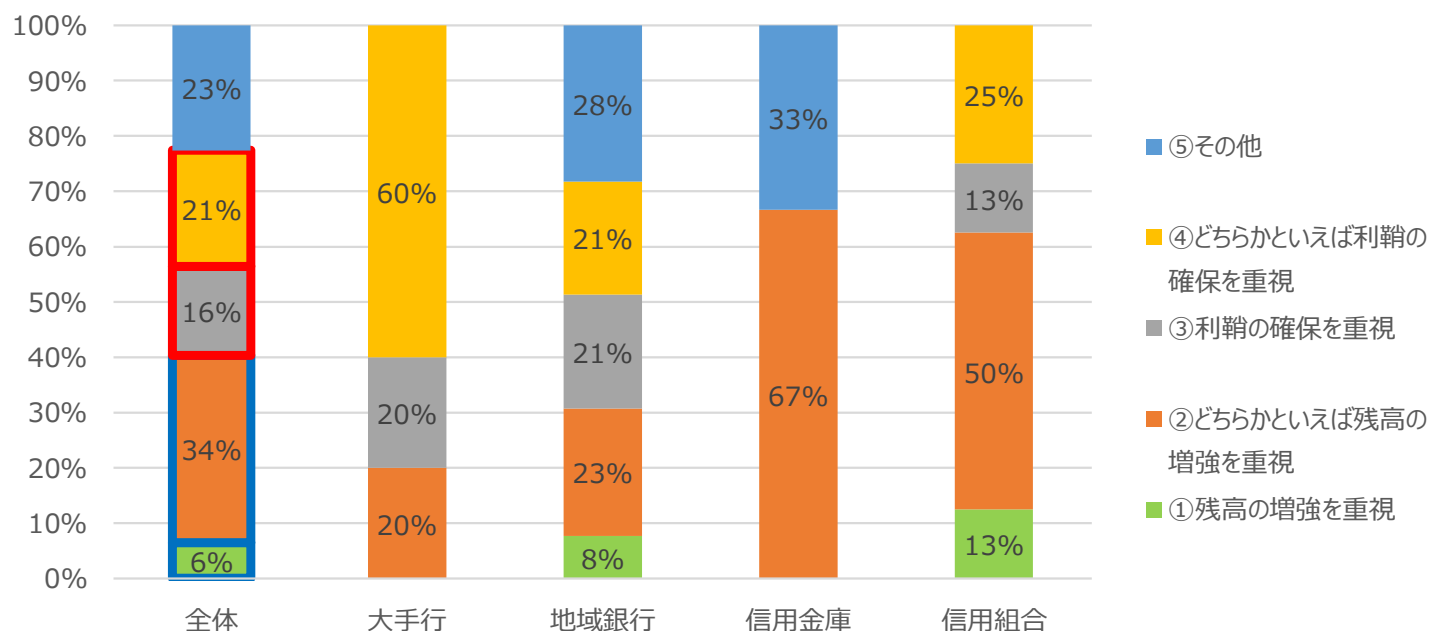
2. 先行きのスタンス

(2) 個人向け貸出

- 2024年度入り後の個人向け貸出スタンスについて、調査先では、「利鞘の確保」または「どちらかといえば利鞘の確保」を重視すると回答している先が4割弱、「残高の増強」または「どちらかといえば残高の増強」を重視する先が4割となっており、足許のスタンスから大きな変化は窺われない。

— 業態別にみても、足許のスタンス同様、4月以降も、大手行、地域銀行では利鞘確保を重視する先が多数となっている一方、信用金庫、信用組合では残高増強を重視する先が多い。

▽ 2024年度入り後の個人向け貸出のスタンス





Ⅱ. 金融機関の貸出スタンス

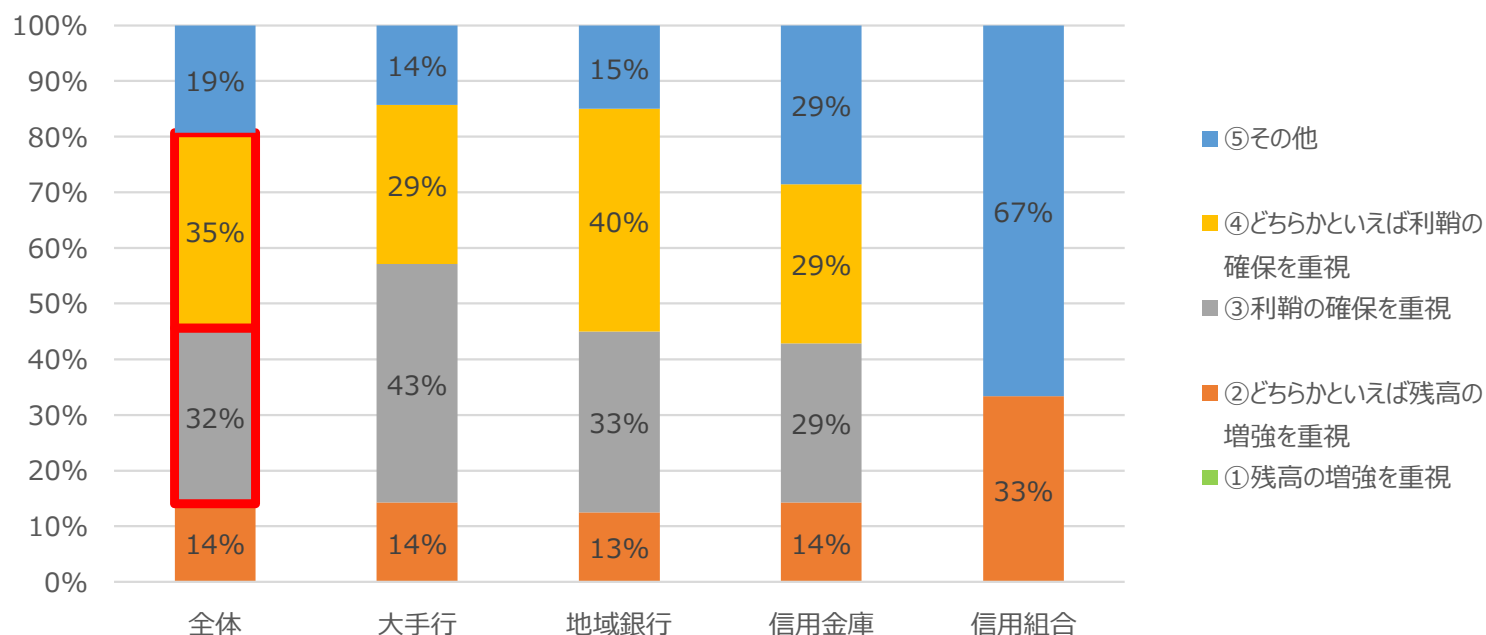
2. 先行きのスタンス

(3) 地公体向け貸出

- 2024年度入り後の地公体向け貸出スタンスについて、7割弱の調査先が「利鞘の確保」または「どちらかといえば利鞘の確保」を重視と回答しており、足許のスタンスから特段の変化はみられない。

— 業態別にみても、足許のスタンスから目立った変化は窺われない。

▽ 2024年度入り後の地公体向け貸出のスタンス



以 上